

町民参加の町史づくり



竹富町史たより

1998.3.31(火)

第13号



竹富町史編集室

沖縄県石垣市字大川10番地
TEL・FAX兼用 (09808) 2-9985

目次

第十二巻資料編「戦争体験記録」を発刊……………	(1)
第十一巻資料編「新聞集成Ⅲ」を発刊……………	(2)
第十三回町史編集委員会を開催……………	(3)
△町史編集委員会トピック△……………	
小浜島の史跡巡見……………	(4)
第十巻資料編「前近代・近代」編集要綱……………	(5)
竹富町関係近代・前近代資料目録……………	(8)
△写真にみるわが町△……………	
バージャー民政官の視察……………	(25)
△新聞で知る町の今昔△……………	
竹富村から竹富町へ……………	(26)
収蔵図書紹介……………	(27)
業務日誌……………	(30)
編集後記……………	(33)

●表紙の写真●

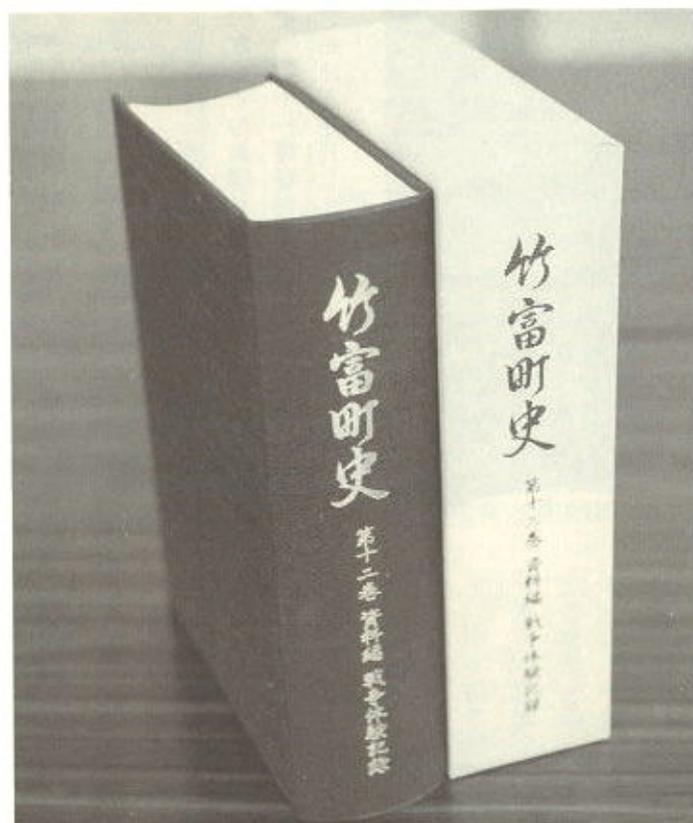
網取小中学校の1969学年度（昭和44）終業式及び卒業式の後に撮影した記念写真である。同校は1898年（明治31）に大川尋常小学校崎山分教場として創立、その後、紆余曲折があり、1957年（昭和32）に網取小学校として独立した。しかし、1971年（同46）に廃校となり73年の歴史に終止符を打った。なお、第12号の表紙写真は黒島小中学校でした。

『竹富町史』第十二巻資料編「戦争体験記録」を発売

——一六五人の戦争体験証言と戦災実態調査等を収録——

八重山全域の戦争を視野に入れて編集した『竹富町史』第十二巻資料編「戦争体験記録」を、このほど発売しました。平成六年度に発売した第十一巻資料編

「新聞集成Ⅱ」に続くものです。「戦争体験記録」を読むと、米軍との地上戦はなかつたものの、疎開に伴い猖獗を極めたマラリア、空襲、食糧難などで苦しい



発売された資料編第12巻「戦争体験記録」

体験をした住民の悲惨さ、戦争のむごさが浮かび上がってきます。戦争の実相を知ること、恒久平和を祈念する気持ちが沸き上がります。「戦争体験記録」は町内に建つ慰霊碑、戦争にまつわる写真を「口絵」として使

い、第一章に「住民の戦争体験記録」、第二章には「竹富町の戦況と戦後復興」そして「附録」を大きな柱として編集しました。「住民の戦争体験記録」には、各島別、集落別の全景地図、概況、昭和一九、二〇年当時の集落地図、世帯別戦災実態一覧表、全戦没者名簿、戦争体験記を掲載。「竹富町の戦況と戦後復興」は、島じまの戦争を知る手引き資料となるように書き記しました。「附録」には、船浮要塞に配属された鉄田義司氏の日記、疎開地地図、昭和六年から昭和二九年までの戦争関係年表などを入れました。戦争体験記には一六五人の戦争体験者の証言があります。これを読むと戦争がいかに非人間的であるかということが分かります。本巻を編集するには「戦災実態調査票」に基づき、戦時中の全世帯を対象にした悉皆調査を実施しました。この結果、一三一七人が死亡し、そのうち九六三人はマラリアによる死者であることが分かりました。本巻を恒久平和の礎に役立てて戴くとともに、小中学校の平和学習授業に使ってもらえれば幸いです。

『竹富町史』第十一卷資料編「新聞集成Ⅲ」を発売

—二六七件の記事を収録し、昭和九年から二〇年の世相を浮き彫り—

竹富村（当時）の昭和九年から昭和二〇年までの新聞記事を収録した『竹富町史』第十一巻資料編「新聞集成Ⅲ」を、このほど発売しました。平成七年度に発

刊した第十二巻資料編「戦争体験記録」に次ぐものです。掲載された新聞記事は政治、行政、経済、文化、教育など多方面にわたっており、島じまの社会世相を

浮き彫りにし

ています。特

に「太平洋戦

争」が勃発し

た昭和一六年

以降になると

大政翼賛体制

を基盤に、紙

面は戦争関係

の記事で埋め

尽くされ、住

民の戦意高揚

を煽る内容に

なっています。

基礎資料に

は、沖縄本島

で発行された『琉球新報』『沖縄日報』八重山で発行された『八重山新報』『先島朝日新聞』『八重山民報』『海南時報』を用いました。

編集作業は沖縄本島で発行された新聞については、沖縄県立図書館から借用したマイクロフィルムの複製本を町史編集室が購入して活用し、八重山で発行された新聞については、石垣市立図書館が所蔵するマイクロフィルム複製本を借用して進めました。作業は最初に竹富町と関係のある記事を検索し、そして見出し一覧表を作成することから着手しました。

その後、編集小委員会で第一次、第二次、三次と記事の評価を行い、厳選して収録する記事を決定。最終的に一一六七件になりました。記事を選択する中で、採用記事は一〇五件でした。

本巻が記事収録した時期は、軍国主義体制が確立され、戦時一色に塗り潰された時代です。昭和一五年には国策により八重山も一紙だけとなり、それ以降、『海南時報』だけが発行されました。しかし、昭和二〇年の途中に廃刊しました。



1167件の記事を収録した資料編第11巻「新聞集成Ⅲ」

竹富町史第十二回編集委員会を開催

―新たに編集委員四人を増員、「前近代・近代」編を審議―

第十三回町史編集委員会及び編集委員
(補充)委嘱状交付式が一月三十一日、
町史編集室で開かれました。委員会の開



史料編第10巻「前近代・近代」編について審議した第13回町史編集委員会

催に先立ち、今回、新たに編集委員に選
任された四人に西島本進町長から、委嘱
状が手渡されました。

編集委員会では委嘱状交付の後、西島
本町長は「編集委員の先生方におかれま
しては、今後とも本町の町史編集に対し
てご指導を賜わりたく思います。本町は
今年、町制施行五十周年の佳節を迎えま
す。町史編集室は、この節目に町制施行
五十周年記念誌の編集を担当することに
なっております。つきましては先生方
のご協力をお願いいたします」とあいさつ、
記念誌発刊に向けて編集委員に対して協
力を求めました。

今回の編集委員会では、「前近代・近
代」編の編集について、竹富町史巻別、
編別発行年度の一部見直しについて、町
制施行五十周年記念誌発刊について、な
どが議題として提案されました。

「前近代・近代」編の発刊に向けては
膨大な資料目録が作成されました。活発
な審議の結果、最終的に「前近代編、近
代編を分冊して発刊する」「発行年度、
順序は今後、小委員会検討を重ねる」
「竹富町独自の資料を確定し、翻刻が必
要な資料は翻刻を施し、編集資料として
利用する」などの意見にまとまりました。

町史巻別、編別発行年度の見直しにつ
いては、「郷友会編」とも絡め「小委員
会及び専門部会で具体的に判断していく」
との考えに落ち着きました。さらに町制
施行五十周年記念誌発刊に関しては「地
元の編集委員で記念誌編集委員会を発足
させ、今後、早い時期に委員会を開き、編
集内容などを決定する」としました。

審議事項は、この他に佐藤金市氏の手
書き原稿の編集発刊、鉄田義司日記の発
刊について話し合われ、「史料叢書のス
タイトルで発刊していく」との意見に落ち
着きました。

なお、新たに委嘱された四人の編集委
員は大仲康文、池城安伸、石垣金星、里
井洋一の各氏です。

— 小浜島の史跡巡見 —

竹富町の鳥じまの名所旧跡を訪ねる町史編集委員会（本成善康委員長）の第三



小浜島の名所旧跡を訪ねた史跡巡見

回史跡巡見が一月三十一日、小浜島で行われました。第十三回町史編集委員会に引き続き、午後から実施したもので、雨天の空は、曇天ながらも晴れ上がり、充実した史跡巡見になりました。

編集委員は委員会を済ませた後、昼食をとり終え、午後十二時二十分、石垣港発の高速船に乗り込み、小浜島へと向かいました。二十分後には無事、小浜港に着き、その後、小型バスに乗り込み島の史跡を巡る「学習の小旅」に出かけました。巡見する場所は、小浜糖業の周辺に広がるトゥマール貝塚、ニシンダ貝塚、そしてフルロウ山貝塚、東表御嶽（アルムティワン）、海軍特攻艇格納壕跡、島の最高峰で、島の豊かさを歌い上げた「小浜節」にも歌われる大岳（ウフダキ）、佐久伊御嶽・仲山御嶽（サクイワン・ナカヤマワン）、照後御嶽（テイダクシワン）、小浜旧集落遺跡、嘉保根御嶽（カブニワン）ナカンドー御嶽、細崎など十三カ所。講師は編集委員の大仲康文、黒島精耕、新本光孝の各氏が務め、旧跡の由来などを分かり易く説明しました。

編集委員は少々、息を切らせながら標高九九・四mの大岳に登ったが、頂上にとどり着くと、ほっとした表情でした。

小浜島は、八重山群島のはぼ中央にあるため、近くに西表島、嘉弥真島のほか、少し離れて竹富島、黒島、新城島、石垣島を眺望することができました。遠く離れた鳩間島や波照間島は、雲がかかって見ることができませんでしたが、それなりに満足でした。

史跡巡見では当初、唐人墓、ユンドゥゥリースク遺跡、ウティスク山遺跡を訪ねる予定でしたが、遺跡が険しいなどの理由で、今回は見合せました。しかし、大岳に登って遺跡のある場所を確認しました。遺跡に向かうバスの中では、講師による島の自然、豊かな海の幸に恵まれた島よさなどの説明がありました。

細崎では整備された漁港に足を踏み入れ、漁民から話を聞くことができました。海軍特攻艇格納壕跡では、実際に壕中に入り、戦争の爪痕が今も残っていることに驚嘆する委員もいました。

竹富町史第十卷資料編「前近代・近代」編集要綱

一、はじめに

八重山は日本最南端に位置し、先史から現代にかけてユニークな歴史を歩んでいる。文献史料のほとんどない先史時代はともかく、史料に登場した古琉球及び近世、近代の八重山を概観した時、そこには先人の力強い営為がほとばしり、当時の社会を窺い知ることができる。

社会状況は史料からその一部を垣間みることができるが、想像力を豊かにすればダイナミックな八重山を想い描くことができる。しかし、本巻では史料を通じて、史料を基礎にして八重山、竹富町の近代および前近代の社会を忠実に浮かび上がらせることにある。

八重山が記録の上で登場するのは一四世紀末である。一三九〇年に中山王に貢献し緩やかではあるが、政治的に琉球圏域に組み込まれた。だがそれでも独自の政治経済社会を形成していたといわれ、

沖繩本島とは異なる民衆の営みがあった。

朝鮮の済州島民が一四七七年に遭難して与那国島に流れ着き、その後、帰国の途につくまでの様子を記した『李朝実録』中の「朝鮮人漂流記」は竹富町の島民の暮らしの様子が綴られ、往時の生活状況を読み取ることができる。

一五世紀末期の八重山は群雄割拠の時代であり、石垣島、与那国島、西表島、波照間島には首長らが民衆を統括して勢力を競っていた。一五〇〇年には琉球王府に反旗を翻したオヤケアカハチの乱があった。この時期には全般的に当時を知る同時代史料は数少ない。史料は、『球陽』『中山世鑑』『中山世譜』など後になって琉球王府が書き記したものがほとんどである。

琉球王国は一六〇九年に島津氏の侵攻を受けるが、琉球史の中では一般的に歴史区分をする場合、島津侵攻を境にそれ

以前を古琉球、それ以後は琉球藩の設置までは近世として位置づけられる。八重山では近世においては人頭税が施行され、民衆を困窮に陥れたが、沖繩県が誕生し近代を歩み始めた三〇年余後の一九〇三年に施行された土地整理により廃止された。

近世の八重山は様々な社会的、政治的事象等がみられる。人頭税もさることながら明和の天津波、寄百姓、新村建てなどがあり、大浜、石垣、宮良の三間切、蔵元を中心に村には番所が置かれ、統治組織も明確化された。その中で王府は檢使を派遣し島の統治に目を光らせ、役人の不正をただすケースもあった。王府からの布達文書は公事帳、規模帳の形で発せられた。蔵元にはこれらの史料の他、多種多様の文書があり、数多くの古文書類が保管された。

近世の琉球は八重山も含めて多彩な様相を呈しているが、一八七九年には明治政府は琉球処分を断行、先に設置した琉球藩を廃止する廃藩置県を行い、近代社会がスタートした。しかし、廃藩置県を

実行したものの、従来通りの経済体制を踏襲し、旧慣温存政策を進めた。だが、明治三〇年代になると、明治政府は沖縄県を通じて本格的に土地整理を行う旧制度の改革に乗り出した。

近代は一般的に沖縄戦が集結した一九四五年までとされるが、この時期は分島問題、八重山島役所の設置、断髪騒動、土地整理、八重山島庁の設置など様々な現象が見られ、住民生活をも大きく変えた。

昭和初期になると軍国主義が主唱され、軍部は中国大陸を侵略、さらに南洋諸島にも進出し大東亜共栄圏を樹立。そこで米英蘭と衝突を繰り返して太平洋戦争を引き起こした。戦争末期には沖縄戦となり、住民は米軍による攻撃、食糧難で死の恐怖にさらされた。八重山では戦争マラリアが猖獗を極め多くの人々が死亡した。竹富町も同様だった。戦争は敗戦で終結した。

二、目的

八重山は沖縄本島とは異なり、竹富町

を含めて島じまには数多くの古文書類が残っているとされる。これは沖縄戦による被害が比較的少なかったことが要因だといわれているが、確かにこれまで各種史料が発掘されている。

近代、近世、古琉球における八重山、竹富町はどのような政治、経済、社会の状況を呈し、民衆の生活はどうであったのか。いにしえの島じまの世相等は、古文書の世界から明らかにできると考える。先人が築いてきた社会及び、往時の状況を鮮やかに浮き彫りにさせることは過去を知り、未来を切り拓くことにつながる。「歴史は魂の拠り所、未来への羅針盤」という格言もある。古文書にみる八重山、竹富町の近代、近世、古琉球はどのような社会だったのか、これを知り得て認識することは極めて重要であり、引いてはこれは二一世紀をにらんだ新しい時代の町づくり、村づくり、人づくりに結びつく。このような観点に立脚して『竹富町史』第十巻資料編「近代・前近代」を発刊する。

三、編集資料の対象

① 近代資料（琉球藩設置、廃藩置県から終戦まで）

・資料は一八七二年（明治五）～一九四五（昭和二〇）までの各種史料を取り扱う。

(イ) 行政文書

上杉県令巡回日誌、一木書記官取調書、沖縄県旧慣租税制度、沖縄県旧慣地方制度、沖縄県八重山島統計一覽表、官報さらに村番所、村役場の文書など

(ロ) 辞令書

(ハ) 板文書

徳傳家（高那家文書）
板証文（大高家文書）
清慎勤（波照間公民館所蔵）など

(四) 学校資料

沿革誌など

② 前近代史料（古琉球期、島津の琉球侵攻から琉球藩設置まで）

・資料は凡そ古琉球期から一六〇九年（万暦三七）～一八七二年（明治五）までの近世期の各種史料を取り扱う。

(イ) 古文書

成宗大王実録—濟州島民漂流記、球陽、中山世鑑、中山世譜、八重山島由来記、八重山島年来記、八重山島規模帳、八重山島農務帳、八重山島蔵元公事帳、八重山島船手座例帳、八重山島袖山職務帳など規模帳、公事帳、例帳、職務帳の類。球陽、琉球国由来記、萬書付集、宮古・八重山両島絵図帳、参遺状、さらに琉球国評定書文書など

(ロ) 辞令書

(ハ) 家譜

錦芳氏など

(ニ) 金石文

碑文…人墓碑、三離橋碑、大枝橋碑、与那田橋碑など
銘文…

四、編集作業

資料の収集から編集スタイルの決定
資料説明の執筆等、発刊に必要な一連の作業を進める。

(イ) 資料の発掘及び収集

石垣市立八重山博物館、石垣市立図書館、沖縄県立図書館、琉球大学附属図書館、国立公文書館、資料所蔵の大学など

(ロ) 資料目録の作成

※別紙に資料目録一覧表

(ハ) 資料の翻刻、ランクづけ、分類

収集した資料の翻刻は専門家に委託する。手初めに喜宝院蒐集館文書（近代資料）から先に手がける。

竹富町固有の文書、竹富町地域が含まれる文書、直接竹富町を扱っていないが、竹富町に影響したであろう文書、と大きく三つにランクづけを行い、文書の内容を吟味し検討を重ねる。

(ニ) 収録資料の検討及び決定
第十卷専門小委員会を中心に

う。

(ホ) 編集方法の検討及び決定

第十卷専門小委員会を中心に
う。

五、編集の方法

資料が収集された段階で最終的に決定するが、資料収集しながら練り上げていく。どうすれば読者が気軽に利用できるのか、ということなどを念頭に置きながら編集スタイルを決める。これは小委員会で煮詰める。

・資料が多量にあるため「近代編」

「前近代編」に分冊して発刊する。

・竹富町独自の史資料を最優先に取り

上げ翻刻、解説付きで編集する。

・史資料から竹富町に関係する事項を抜き出し、題目ごとにひとつくりしてまとめて編集する。

竹富町関係近代・前近代資料目録

竹富町の近代、前近代資料は町固有の文書、八重山全域を対象として町が含まれる文書、直接町を取り扱っていないが、町へも影響したであろう文書など多種多様である。資料目録は、資料を所蔵している機関ごとに作成したが数量は膨大である。ここでは近代資料の喜宝院蒐集館文書について紹介する。

喜宝院蒐集館文書

◇人頭税領収証綴他（自明治三十一年 至明治三十五年）

竹富村番所

◎徴税伝令書

- ・明治三十二年度 田租 (明治31年9月12日)
- ・明治三十二年度 田租 (明治31年9月12日)
- ・明治三十一年度 田租換納 (明治31年11月)
- ・明治三十一年度 田租 (明治31年11月7日)
- ・明治三十三年度 田租 (明治32年10月4日)
- ・明治三十三年度 田租 (明治32年10月4日)
- ・明治三十四年度 田租 (明治33年9月22日) 上布等
- ・明治三十五年度 白縮布他5点 (明治34年9月23日)
- ・第二六五号 田租金の内一部現穀換納につき減額 (明治35年9月4日)
- ・田租金の内一部現穀換納につき減額 (明治35年5月5日)

◎領収証書

- ・第二五七四ノ二号 田租金の内一部粟石換納につき減額 (明治35年10月15日)
- ・第二六六二ノ二号 田租金の内一部米穀換納につき減額 (明治35年10月15日)
- ・明治三十四年度 田租 畑租 (明治35年10月14日)
- ・明治三十四年度 (明治35年12月8日) 米二石一斗
- ・明治三十四年度 田租 (明治35年12月4日)
- ・明治三十一年度 (明治31年9月6日)
- ・明治三十年度 畑租換納 (明治31年2月8日) 米9斗粟3斗他
- ・明治三十年度 畑租換納 (明治31年2月8日)
- ・明治三十一年度 (明治31年4月12日) 粟三石六斗
- ・明治三十一年度 白木綿布 (明治31年9月12日) 白上布 白下布
- ・第三五六号 記 不明
- ・明治三十一年度 (明治31年7月) 白細上布
- ・明治三十一年度 田租換納 (明治32年1月22日) 米式拾式石五斗
- ・明治三十一年度 田租換納 (明治32年12月26日)
- ・明治三十一年度 田租換納 (明治32年5月4日) 粟二石一斗
- ・明治三十二年度 田租 (明治32年5月26日)

- ・明治三十一年度 田租換納 (明治32年10月19日)
- ・明治三十一年度 (明治31年6月)
- ・明治三十一年度 田租換納 (明治32年11月)
- ・明治三十一年度 田租換納 (明治32年12月18日)
- ・明治三十四年度 田租 (明治35年12月10日)
- ・明治三十四年度 田租 (明治35年10月14日)
- ・明治三十四年度 (明治35年11月8日)

◎送り状

- ・事務用品等の送り状 (明治32年2月8日)

◎契約及金銭物品ニ関スル諸証書(自明治31年~至明治36年)

竹富村番所

- ・領収証 明治30年度平民及び士族、貯蓄米 (明治31年2月8日)
- ・預り証 公費の預り (明治32年4月19日)
- ・預り証 三度夫代納 (明治32年4月19日)
- ・仕訳書 (4月5日)
- ・送り状 事務用品等の送状 (明治32年8月21日)
- ・送り状 茶 (明治32年9月2日)
- ・送り状 朱肉 (明治32年2月13日)
- ・記 育種肥料小屋修繕金について (明治31年10月19日)
- ・送り状 状袋一〇〇枚 (明治31年11月22日)
- ・徴税伝令書 明治31年度田租、畑租 (明治31年10月27日)
- ・領収証 ススキ16束 (明治31年8月23日)

- ・送り状 事務用品等 (明治31年9月10日)
- ・領収証書 明治31年度 畑租 (明治32年5月4日)
- ・領収証書 明治31年度 畑租 (明治32年1月22日)
- ・領収証書 明治30年度 田租 (明治31年3月19日)
- ・領収証書 明治30年度 (明治31年4月12日)
- ・徴税伝令書 明治32年度田租年貢重出、畑租士族分、平民分 (明治31年10月24日)
- ・第二九三号 明治32年10月24日発令、徴税伝令書中田租分にあやまりがあったので、訂正の徴税伝令書を送ること (明治32年11月22日)
- ・(表題無) 明治32年度 田租 徴税伝令書か (明治32年10月24日)

- ・領収証書 明治30年度 畑租 (明治31年10月19日)
- ・送 状 石油一斗 (明治32年11月11日)
- ・送 状 事務用品等 (明治32年12月22日)
- ・送 状 事務用品等 (明治32年12月26日)
- ・送付状 事務用品等
- ・記 出願必携一冊 但、戸籍上願届例式 (明治32年1月21日)
- ・領収証 明治32年度 田租 (明治32年5月26日)
- ・領収証書 明治31年度 田租 (明治32年6月13日)
- ・送 状 備後疊10枚 (明治32年12月)
- ・領収証書 明治32年度 田租 (明治32年12月26日)

- ・送 状 茶、石油、事務用品外(明治33年3月19日)
- ・送 状 太陽曆、藤椅子(明治33年3月20日)
- ・領収証書 明治32年度 畑租(明治33年5月21日)
- ・領収証書 明治31年度 田租(明治33年7月24日)
- ・領収証書 明治32年度 田租(明治33年1月27日)
- ・領収証書 明治32年度 田租(明治33年4月25日)
- ・領収書 明治32年度 畑租(明治33年5月11日)
- ・送 状 沖繩読本、小学習字帖、生徒への売渡しのため(明治33年5月)
- ・送 状 事務用品等(明治33年7月31日)
- ・徴税伝令書 明治34年度 田租(明治33年9月22日)
- ・送 状 事務用品等(明治33年11月7日)
- ・徴税伝令書 明治33年度田租年貢重出、畑租土族、平民(明治33年10月22日)
- ・記 尋常小学校読本、小学習字帖の送り状(明治33年12月23日)
- ・領収証 明治32年10月24日尋常小学校第6号付ヲ以テ台湾へ持参用トシテ所望ノ蘇鉄6本の運送代(明治33年)
- ・請求書 上記の請求
- ・送 状 事務用品、石油、茶等
- ・(表題無) 去る5月30日付、竹富分校生徒用書籍の代金に関して(明治33年12月22日)
- ・送り状 事務用品、石油等(明治34年1月15日)
- ・領収証 白芭蕉布(明治34年1月15日)
- ・領収証 竹富村人民より波ノ上宮幣社穂料(明治34年1月16日)
- ・領収証書 明治33年度 田租(明治34年2月)
- ・領収証 東宮殿御慶事奉祝会、死去軍人招魂祭会に竹富村吏員、村民よりの寄附(明治34年2月9日)
- ・領収証書 明治33年度 田租(明治34年4月9日)
- ・領収書 明治33年度 畑租(欠 6月24日)
- ・送 状 事務用品、石油他(明治34年9月13日)
- ・領収書 明治33年度 田租、畑租(明治34年5月8日)
- ・領収書 明治33年度 畑租(明治34年9月13日)
- ・領収書 明治33年度 畑租(明治34年12月16日)
- ・領収書 明治33年度 畑租(明治34年9月15日)
- ・送 状 事務用品等(明治34年10月14日)
- ・送附状 事務用品等(12月19日)
- ・領収証 赤縞芭蕉布、赤縞木綿布、共進会出品(明治34年1月14日)
- ・記第三三号 雑木等、育種場附属家修繕入用(明治34年2月20日)
- ・第六〇号 ススキ三拾束、極々上等、波照間分校修繕用として依頼(明治34年3月14日)
- ・第六〇号ノ一 上記、ススキ三拾束の送達が遅れているの催促(明治34年3月30日)
- ・第八二号 二月二十日付の手形を入置いた育種場附属

・送り状 事務用品、石油等（明治34年1月15日）

・第八二号 二月二十日付の手形を入置いた育種場附属

家修繕用品の送り遅れ（明治34年4月9日）

の変更（明治35年4月19日）

・領収証 ススキ拾束（明治34年8月11日）

・請求書 事務用品、椅子等（明治34年10月14日）

・領収証 節スキ拾束（明治34年4月12日）

・証明書 山林地の売買証文（困窮のため）

・第一〇九号 本月九日の育種場附属家修繕用材木の送達

の遅れについて（明治34年4月27日）

の遅れについて（明治34年4月27日）

・領収証 （明治35年9月2日）

・号 外 去月十四日依頼のススキの値段が高値なの

（書簡） 竹富村徴兵会寄附金について（12月2日）

で値下げの要請（明治34年4月25日）

・領収証 スコブ代（明治35年12月20日）

・領収証 雑木等（明治34年5月8日）

・請求書 事務用品、茶等（明治35年5月27日）

・記 竹富村分雑木等の値段について

・証明書 竹富村事務所発（明治34年10月9日）

・第二三一号 二月二十日第三三号で手形を入置いた、育

・領収書 明治33年度 畑租（明治34年10月14日）

種場附属家修繕用入具代金の領収証の請求

・飯領収書 明治34年度 田租（明治35年3月25日）

（明治34年9月3日）

・領収証書 明治34年度 田租（明治35年4月28日）

・領収証 育種場の材木代（明治34年9月）

・領収書 明治34年度 畑租（明治35年3月25日）

・徴税伝令書 明治34年度 田租年貢重出、畑租士族平民

・領収書 明治34年度 畑租（明治35年9月30日）

（明治34年11月1日）

・受領書 波上宮御初穂料、御守礼代金

・第三二〇号 明治35年度貢布徴税伝令書に関して

（明治35年5月7日）

（明治34年11月2日）

・領収書 明治34年度 田租（明治35年7月31日）

・徴税伝令書 明治35年度田租（明治34年11月2日）

・領収書 明治34年度 田租（明治35年8月27日）

・徴税伝令書 明治35年度 田租（以下未記載）

・第二六五号 明治34年11月1日第7号徴税伝令書田租の

・徴税伝令書 明治35年度 田租年貢重出、畑租士族

内、現穀換納許可に付減額のこと（明治35年8月15日）

（明治35年11月20日）

・領収書 明治34年度 田租（明治35年9月）

・送 状 納租通知書用紙（明治35年7月17日）

・領収証書 明治34年度 田租（明治35年9月）

・請求書 事務用品、茶等（明治35年1月20日）

・徴税伝令書 明治34年度 田租（明治35年10月14日）

・証明書 新城村頭宮良当整、風波の都合により出発

・第二七八三ノ二号 明治34年11月11日徴税伝令書田租の

内現般換納許可に付減額（明治35年12月4日）

- ・領収証書 明治35年度 畑租（明治36年5月4日）
- ・領収証書 明治35年度 畑租（明治36年5月15日）
- ・領収証書 明治35年度 田租（明治36年5月15日）
- ・領収証書 村口、村佐事 給与金の領収書

（明治36年7月20日）

- ・送り状 状 袋（明治36年4月24日）
- ・送状 状袋、石油、水甕等（明治36年7月10日）
- ・領収証 明治35年度女頭給与の領収書

（明治36年7月20日）

- ・証明書 新城村頭宮良当整 天候の都合により竹富
出発すること（明治36年8月3日）

- ・証明書 同上

- ・領収書 明治35年度 田租（明治36年8月24日）
- （表欠） 明治35年度 田租領収書

（明治36年8月3日）

- ・第二二六号 土地売買証明書を渡すことについて

（明治36年12月10日）

- ・（表題無） 死亡証明書 石垣間切竹富村90番地寄宿、
本籍18区字内75番地平民 大城蒲（明治36年12月）
- ・（表題無） 軍人の退営につき帰郷費用を支給するため
（石垣から竹富まで）その間の距離を報告するよう達し

（明治36年9月27日）

- ・（表題無） 上記の書式

- ・（表題無） 上記の距離（明治36年10月3日）

- ・証明書 上記の証明書（明治36年10月3日）
- ・証明書 18区字西75番地平民 大城蒲の死亡証明

（明治36年12月14日）

◇報告書綴 竹富村番所

- ・沖繩県告示報告綴（明治二五年） 竹富村番所
- ・事件摘要 告示第二号、第四十号、第二回報告、第四回報告

- ・告示第二号 知念間切知念村百五十九番地 平民上原亀江
外三人相ノ件

- ・告示第三号 那覇泊村二百七十一番地 土族有銘兼献外
四人相ノ件

- ・告示第四号 羽地間切我部村六番地 比良民大城平四郎人
相ノ件

- ・告示第五号 首里警察署改築落成移転ノ件
- ・告示第六号、大里間与那原村百九十九番地 平民稲福與中
外一名ノ人相

- ・告示第七号 大里間切与那原村四十番地 土族神谷次良外
八名ノ人相

- ・第三課第一回報告 本県病院附属医生教習所生徒志願ノ件
- ・告示第十五号 貢献麦石代相場定ノ件

- ・告示第十七号 大分県下ニ於テ蚕糸業取締規則該県ヨリ照
会ノ件

- ・告示第十八号 本県知事丸岡莞爾 奈良原繁転任ノ件

- ・告示第十九号 登簿噸數一百噸以上内外國航船海軍參謀部ニ於テ調査ノ件
- ・告示第二十号 鳥取県蚕糸業取締規則該県知事ヨリ通知ノ件
- ・告示第二十一号 今婦仁間切天底村七十二番地 士族伊波興学外十一名人相ノ件
- ・告示第二十二号 名護間切安和村三十九番地 平民比嘉乙吉外八名人相ノ件
- ・告示第二十三号 渡嘉敷間切渡嘉敷村五番地 平民与那嶺樽外十二名人相ノ件
- ・第二課第五回報告 大阪府立農学校ニ於テ本年製造ノ春蚕種望ノ件
- ・告示第二十四号 越来間切安慶田村五十四番地 士族比嘉憲光外五名人相ノ件
- ・告示第二十五号 小祿間切儀間村二十一番地 士族我那霸三良外一名人相ノ件
- ・告示第二十六号 貢米外四品石代相場定ノ件
- ・告示第二十七号 鹿兒島県大島郡西方條村番地不詳 平民志喜里祥喜外九名人相ノ件
- ・告示第二十八号 伊平屋島仲田村十二番地 平民仲里孝吉外二名人相ノ件
- ・告示第二十九号 本県羽地間切親川トアルヲ名護間切東江村ト改正ノ件
- ・告示第三十号 那覇警察署所屬三重城水上警察署改称ノ件

- ・告示第十八号 本県知事丸岡莞爾 奈良原繁転任ノ件
- ・告示第三十一号 今婦仁間切岸本村三十七番地 士族山田義宜人相ノ件
- ・告示第三十二号 那覇島尻両役所久米村ノ天后宮ニ於テ事務取扱ノ件
- ・告示第三十三号 東京府下ニ牛疫發生ニ付畜牛者ハ注意ノ件
- ・告示第三十四号 貢棕侶繩代金相場定ノ件
- ・告示第三十五号 貢下大豆外四品石代相場定ノ件
- ・告示第三十六号 士官候補生幼年学校生徒試験ヲ受クノ件
- ・告示第三十八号 宮古島砂川間切砂川村六十二番地 平民友利伊奴人相ノ件
- ・告示第三十九号 本庁内門内へ乗車乗馬ノ儘出入り苦シカラズノ件
- ・告示第四十号 消防出初式執行ノ為出火信号打鳴ノ件
- ・内務部第二課第二回報告 石川県ニ於テ開設スル大日本農會品入加ノ件
- ・内務部第二課第三回報告 埼玉県賀美郡丹莊村大字植竹共進会規則ノ件
- ・内務部第二課第四回報告 鳥取県ニ於テ物品陳列場設置規則ノ件
- ・内務部第三課第四回報告 本県士族丸岡莞爾ヨリ教育金寄附ノ件
- ・内務部第二課第六回報告 宮城県下仙台市大町ニ物産陳列場ヨリ設置旨該県ヨリ通知アリノ件

・正誤 瘋癲人取締規則第八条第一項中第四条ノ三字ハ衍ノ件

・正誤 本県告示第二十八号文中本月ハ去月ノ誤リノ件
◇報告綴(明治37年) 竹富村頭 宮良当整

・竹第15号臨時報告 舟の遭難について

(明治37年7月17日)

・記 剗舟出港のこと

・竹第五号報告書 舟の遭難について(明治38年1月28日)

・流失物品取調書 剗舟、舟板、舟帆等、物品名と金額

(明治38年1月27日)

・竹第九号報告 剗舟の遭難について

(明治38年1月22日)

・竹第一〇号報告 伝馬舟のひきあげについて

(明治38年4月25日)

・第八三〇ノ一号 筵、吠、布、袋、空箱等が海上に漂流している際は場所等の詳細を報告するように達し

(明治38年4月20日)

・第一三三七号 船舶遭難の際、または発見の際はすみやかに報告するよう達し(明治38年7月15日)

・竹第三三三号報告 舟の遭難について(明治38年11月5日)

・竹第二二二号報告 剗舟の遭難について
(明治39年6月24日)

・第一一九八ノ一号 6月24日届出の遭難者が未だ行方不明につき人相書の提出について(明治39年6月26日)

・竹第四九ノ一号 上記、人相書(明治39年6月27日)

・流失御届 剗舟の流失届(明治39年10月26日)

・流失御届 剗舟の流失届(明治39年10月26日)

・竹第三六号報告 剗舟の遭難について

(明治39年11月7日)

・流失物品取調書 剗舟等、流失物品とその金額

(明治39年11月7日)

・竹第四〇号報告 剗舟遭難について(明治39年11月17日)

・流失物品取調書 流失物品とその金額

(明治39年11月17日)

・竹第四九号報告 流失物品(届出済)が拾われ、届出られ

た件について(明治39年12月6日)

・竹第三八号御届 漂流の剗舟拾揚げについて

(明治40年11月21日)

・(表題無し) 届出済の剗舟が発見されたので引き渡しについて(1月31日)

・領収証 剗舟発見の報酬の受けとり証

(明治41年2月4日)

・竹第三九号御届 海岸漂着の木材について

(明治40年11月21日)

・領収証 上記漂着木材発見の報酬

(明治41年3月)

・竹第四七号御届 海岸漂着の櫓発見について

(明治40年12月7日)

・第一八六五ノ二号 沖縄県訓令の勸業統計諸表の提出について（明治38年11月21日）

・竹第十九号 明治37年分勸業統計第7表提出（明治37年7月30日）

・第七表 上記第7表、大麦、裸麦、小麦の明治37年分

・第二〇四三ノ一号 勸業統計調査品目の中、別表記載項目は本土の平均のため、実情にあう調査をすること（明治38年12月23日）

・竹第二号 明治38年分勸業統計（明治39年1月10日）

第9 甘藷統計

第10 菜種統計

第11 芭蕉芋統計

第12 蘿蔔統計

第13 実芭蕉統計

・竹第三号 記 勸業統計の内、蚕糸類、真綿、家畜市場、農工産物品評会の項目に關しては竹富村に事実のないことの報告（明治39年1月10日）

・第一三号 勸業統計の追加について（明治39年1月10日）

・竹第六号 明治38年分勸業統計（明治39年2月20日）

第24 澱粉（甘藷）統計

第25 牛馬統計

第26 出産瀕死牛馬統計

第28 売買牛馬統計

第29 牛馬の相場統計

第31 家畜統計

第34 屠殺統計

第42 織物統計

第77 琉球形漁船統計

第79 漁獲物統計

第98 官有林伐採統計

第一〇三 林産物雜類統計

・竹第七号 記 勸業統計の内、乳牛、牧場、陶磁器、銀器、銅器、錫器、工場、石炭消費高、会社、質屋營業など竹富村に事実のないものの報告（明治39年2月20日）

・竹第一一号 明治38年分勸業統計（明治39年3月8日）

第1 職業別戸口数統計

第2 自作及小作地統計

第3 小作料統計

第4 自作及小作戸数統計

第38 麦作子想統計

第46 畳表、真蔭及莞蔭統計

第47 畳、真、真座及莞蔭一二統計

第56 酒類統計

第70 琉球形船舶統計

第73 難破船統計

第74 漁人、漁具統計

・竹第一二号記 勸業統計の内、蚕児景況、煉瓦及瓦、漆器など竹富村に事実のないものの報告(明治39年3月8日)

・第七四号 官有山林原野及民有山林原野立樹の調査について(明治39年3月12日)

・竹第二一ノ一号 上記調査の旨報告(明治39年4月26日)付、調査報告書

・竹第一三号 勸業統計 明治38年分

(明治39年3月31日)

第84 森林所有別面積統計

第85 原野所有別面積統計

・竹第一四号 勸業統計の内、保安林は竹富村と事実のないこと(明治39年3月31日)

・竹第一九号 勸業統計 第37 米作予想

(明治39年5月20日)

・竹第二〇号 勸業統計 明38年分

(明治39年5月31日)

第22 甘蔗統計 第23 砂糖統計

・竹第二一号記 勸業統計の内、春蚕は竹富村と事実のないこと(明治39年5月31日)

・(書簡) 6月29日

・竹第二三号 勸業統計第41第1回甘藷予想統計

(明治39年6月25日)

・竹第二四号 勸業統計 第6 麦統計

(明治39年6月28日)

・竹第二八号 勸業統計 第32 鶏統計

(明治39年7月18日)

・竹第二九号記 勸業統計の内、桑畑及茶畑、鶯、農工産物品評会、賃銭に關し、竹富村に事実のないこと

(明治39年7月18日)

・竹第四二号 勸業統計(明治39年11月30日)

第5 米統計

第7 豆類統計

第8 粟、黍、落花生、玉蜀黍

・竹第五〇号 勸業統計(明治39年12月7日)

第9 蕎麦、稗、甘藷、馬鈴薯統計

第10 蕪、蕃椒、実綿、菜種統計

第11 苧麻、山藍芭蕉、蘭統計

第12 蘿蔔、胡蘿蔔、午苧、筍統計

第13 菓実統計

・竹第五一号計 勸業統計の内、蚕糸類—1、2、3真綿家畜市場、農工産物品評会に關して、竹富村に事実のないこと(明治39年12月7日)

・竹第四号 勸業統計(明治40年1月25日)

第24 澱粉統計

第25 牛馬統計

第26 出産瀕死牛馬統計

第28 売買牛馬統計

第29 牛馬の相場統計

第31 家畜統計

第34 屠殺統計

第42 織物統計

第77 琉球形漁船統計

第79 漁獲物統計

第98 官有林伐採統計

第一〇三 林産物雜類統計

・竹第五号 記 勸業統計の内、乳牛、牧場、陶磁器、銀器、銅器、錫器、工場―1、2、3など、竹富村に事実のないこと(明治40年1月25日)

・竹第七号 勸業統計(明治40年2月26日)

第1 職業別人口統計

第2 自作及小作地統計

第3 小作料統計

第4 自作及小作戸数統計

第38 麦作予想統計

第46 畳表、真蔭及莞蔭統計

第47 畳、真蔭及莞蔭―2統計

第56 酒類統計

第70 琉球形船舶統計

第73 難破船統計

第74 漁人、漁具統計

・竹第八号 記 勸業統計の内蚕児景況、煉瓦、漆器、畳表、真蔭及莞蔭―1、油類、製藍、和紙など竹富村に事実のないこと(明治40年2月26日)

・竹第一〇号 勸業統計(明治40年3月)

第84 森林所有別統計 第85 原野所有別統計

・竹第二号 記 勸業統計 保安林については、竹富村に事実のないこと(明治40年3月)

・第七三四ノ一号 「其筋」より明治39年12月末日現在の二才牡馬の実数を調査するよういわれたが無理なので、明治40年4月末現在の三才牡馬の実数を調査報告するよう達

(明治40年4月9日)

・竹第三一ノ一号 上記の報告について

(明治40年4月12日)

・竹第一五号 勸業総計 第37 米作予想統計

(明治40年4月30日)

・竹第二〇号 勸業統計(明治40年5月25日)

第22 甘蔗統計 第23 砂糖統計

・第二〇三号 地方統計のうち、学校生徒年齢別表報告が提出されていないのではやく提出するよう催促

(明治40年6月8日)

・竹第二二号 小学校生徒年齢別統計

(明治40年6月19日)

・第二一二号 地方統計のうちの茅三二、鶏茅三三、鶯ノ

式表が未提出のため催促（明治40年6月11日）

・竹第四九ノ一号 鶏統計 鷲「ナシ」

（明治40年6月30日）

・竹第二五号 麦統計（明治40年7月4日）

・竹第二六号記 勸業統計のうち桑畑及茶畑、農工産物品

評会、賃銭について竹富村に事実のないこと

（明治40年7月4日）

・竹第二七号 勸業統計第四〇 甘蔗予想統計

（明治40年7月21日）

・竹第四二号 勸業統計（明治40年1月28日）

第5 米統計

第7 豆類統計

第8 粟、黍、落花生、玉蜀黍

・竹第四三号 勸業統計（明治40年11月30日）

第9 蕎麦、稗、甘藷、馬鈴薯統計

第10 薑、蕃椒、実綿、菜種統計

第11 苧麻、山藍、芭蕉、蘭統計

第12 蘿蔔、胡蘿蔔、午芡、筍統計

第13 菓実統計

・竹第四四号記 勸業統計のうち、蚕糸類—1、2、3頁

綿、家畜市場、農工産物品評会について、竹富村に事実の

ないこと（明治40年11月30日）

◇間切島会関スル書類一 竹富村事務所

・□乙第6号 台湾へ持参の蘇鉄6本について

（明治32年10月24日）

・第一八一号 明治31年6月3日夜暴風雨被害報告提出の達

し（明治31年6月6日）

・第三二五号 貯蓄圃米粟の徴収上納の達し

（明治32年12月20日）

・第一七三号 明治31年度公基村基金書送付に關し照合

（明治31年4月）

・第一一四号 明治31年度三度夫御納金書送付に關し照合

（明治31年5月26日）

・第一〇九六号 種牡馬検査願書差出の督促

（明治31年7月19日）

・書 式 種牡馬検査願（明治31年6月30日）

・（表題無） 種牡馬検査願書差出の再督促

（明治31年7月26日）

・（表題無） 種牡馬検査願の督促（7月27日）

・第一一二三三号 葉煙草納付の期間等について

（明治31年7月25日）

・第二九六号 □ 禄税免除の届、提出の督促

（明治31年8月8日）

・□ 禄税免除願

・出生之願・結婚之願・家名相続之願・嗣子送籍ノ願

・証明書 葉煙草密売の疑いのかかった人間が、同姓同

名人の間違いであったため、当人であることの証明書

（明治31年9月14日）

・ 証明書 葉煙草密売人が当村に居ないことの証明書

(明治31年9月15日)

・ 竹富村拾八番地平民上間久戸屋台所ニ出火ニ付消除候次第
左ニ申上候(明治31年12月13日)

・ (表題無) 葉煙草耕作者貢納の催促

(明治31年10月13日)

・ 号外第一二二一号 当葉煙草専売所並各支所葉煙草収納区域
の諸定一般人民への布達を依頼(明治30年12月20日)

・ 葉煙草専売所并支所々轄区域 鹿兒島県、沖縄県の各所
轄区域一覽

・ 号外第一二三号 明治31年1月より3月までの鹿兒島県葉
煙草専売所、本所管内並各支所の事務取扱期間一覽

(明治30年12月20日)

・ 号 外 明治32年4月1日より郵便物中、第一種
(書状)、第二種(葉書)及び為替金高手数料改定の公示

(明治32年4月2日)

・ 郵便税 上記「号外」の改定料金の一覽

・ 第一一二九号 専売支局出張所、明治33年10月5日閉鎖に
つき、それまでに葉煙草耕作者未納者は貢納をするよう触

(明治33年9月26日)

・ 第一四七八号 明治31年10月9日より11月13日までの間八
重山葉煙草専売支所を開庁するため、期間内に耕作者は貢

納するよう触(明治31年9月24日)

・ 第二八五号 明治31年分葉煙草納付期限について

・ 御 届 竹富村字ニボフリにある整理局から取立て置
いた方が明治32年8月4日夜の暴風により欠損した箇所
についての届

・ (表題無) 事務所の椅子が欠損したが、本年度村税予算
に入っていないので繰合せの願い出(明治32年10月)

・ 第一四九四号 首里字当蔵蓮華院住職岳本岱嶺の竹富村に
おける説教についての通知(明治32年12月9日)

・ (表題無) 竹富村人民明治29年度公費未納者及び明治30
年度貢租公費について規則がきびしくなっているので注意
と催促(明治32年3月11日)

・ (表題無) 3月16日送付、竹富村大山福利宛の訴訟書類
送達訂正(4月2日)

・ 第一二八号 明治31年分消耗品受拂簿を取調の都合により、
送るよう依頼

・ 第一七八号 客年(明治31年)9月22日付、第三五四号に
て村財産に係る貯金通帳等の提出を要求したが、至急送る
よう達し(明治32年7月20日)

・ 第一四〇八号 一般の岳本岱嶺、妙心寺派説教の際の説教
場所、状況、村民の様子を報告するよう達し

(明治32年12月25日)

・ (表題無) 上記の報告書(明治32年12月26日)

・ (表題無) 請求されていた石油が那覇より未着につき詫
言(明治32年10月30日)

・ (表題無) 別紙届出済の盜難について西表島炭坑工夫の

うち、脱走した者が当村地方に隠居つたため参考までに届出(明治33年3月7日)

・盗難御届 くり舟一艘、長さ5尋真中2尺7寸の盗難届(明治33年3月7日)

・御届 竹富村二十三番地平民友利兼宅に番地姓名不詳の者、8月2日高那村より至り病にかかったので届出(明治33年8月14日)

・御届 上記届の姓名不詳者の姓名

・第七一号 竹富村人民中より字野原への移住の件(明治33年8月14日)

・竹富村人民之内今般野原村ニ住家作建候付村民等協議ヲ以テ願出之趣左条ニ申上候(明治33年3月)

・(表題無) 竹富村、銀行貯金者と銀行番号、金額の一覧(明治33年4月)

・第一一一号 明治33年度間切税村税徴収金書送付に關する達し(明治33年4月11日)

・第一〇〇号 石垣間切竹富分校改築用として物品寄付者への賞与について(明治33年5月5日)

・(表題無) 黒島村、竹富村民田地小作人、字ヨナラ原田地自作人書き上げ(明治33年5月7日)

記 明治33年度惣代理以下村役者人の申渡

(明治33年6月)

記 明治33年度女頭の中渡(明治33年6月)

記 明治33年度女役者の申渡

(明治33年5月7日)

・東宮御慶事奉祝会 主意書茲ニ規則(明治33年8月4日)

・(表題無) 上記関連(前欠かとも思われる)

・東宮御慶事奉祝会規則(明治33年5月10日)

・第一五二号 野原移転に關して、村總代2名の出頭の達し

(明治33年5月28日)

・第五八二号 竹富分校改築用として物品寄附者に対する賞与について(明治33年5月31日)

・(表題無) 東盛 志の仕業と与那国島へ脱走の件

(明治33年6月19日)

・御届 上記 東盛 志与那国島脱走の件

(明治33年6月19日)

・(表題無) 中央風俗改良会々長より入会者勧誘について

の依頼につき規則書を送付すること并入会者をつるよう

との依頼書(明治33年7月13日)

・証明書 明治33年7月23日風波の都合により、古見村

頭崎原当貴の竹富出発が24日になったことの証明

(明治33年7月24日)

・(表題無) 「東宮殿下御慶事奉祝会」に關して

(明治33年10月22日)

・(表題無) 明治33年11月6日南陽館にて死亡軍人招魂祭

挙行に付、寄附金の願い状(明治33年11月12日)

・第九一六号 官幣社波上宮々司金武朝芳より御守礼一五二

二枚配られ、これを依頼し御初穂として一銭内外の奉納をすること、村方において氏子総代をおくことの達し

(明治33年11月13日)

・第九一六号ノ一 上記初穂料の催促(明治33年12月21日)

・無 号 奉祝紀念として奥武山に公園新設に付き、寄

附金の催促(明治33年12月21日)

・無 号 11月12日付ヲ以テ死亡軍人招魂祭費寄附一件

(明治33年12月21日)

◇間切島会関スル書類ニ 他 竹富村事務所

・第六 号 明治34年3月からの土地整理事業に關して現

地にて人夫を雇い入れたきとの達し

(明治34年1月10日)

・第五三 号 土地整理と勸業について、協議を持ちたい

ので村頭への出庁達し(明治34年2月14日)

・第八四 号 明治34年3月25、6日頃より土地測量のため

整理局技手等出張着手するので諸事便宜をはかるよう達し

(明治34年3月18日)

・第一三二 号 種牡豚取締規則による検査の願出を明治34年

5月15日までに届出るよう達し(明治34年4月24日)

・第一五三 号 種牡馬種牡豚検査の日割

(明治34年5月9日)

・第一二二八 号 尚泰死去の報(明治34年8月20日)

・(表題無) 尚侯爵死去の報(明治34年8月19日)

・(表題無) 竹富村新赴任の警官の書簡(10月7日)

第九一六号 官幣社波上宮々司金武朝芳より御守札一五二

・第三四四号 当郡内他所轄よりの寄留者出生の子の転籍に

係る正男女認知者中相続権を有するものは書式のとおり書

類を提出すること(明治34年12月4日)

・御 届 前記書式(明治34年12月□日)

・(表題無) 明治35年11月の那覇における招魂祭の寄附に

ついて(明治35年1月29日)

・号 外 官幣社波上宮御礼の配り方の依頼 1枚5厘

の奉納金とする(明治35年2月3日)

・号 外 官幣社波上宮御礼配授について

(明治35年4月22日)

・図書館設置ニ就キテ義損金ヲ仰ク趣旨(明治35年1月)

・第一一〇二 号 大麻暦本頒布の件について

(明治35年11月14日)

・(表題無) 大麻暦本頒布の件について

(明治35年10月27日)

・大麻暦本頒布ニ付願(明治35年10月24日)

・始末書 村方早魃により上納金を納めるため材木売買

についての始末(明治35年5月)

・竹富村之儀年増人口致繁榮処地面ハ狭ク有之候付而ハ村民

等希望次第古見地方之内字ヨホへ引移り該ノ近辺、荒田畑

開地作得致シ候ハ々将来当村民共為益相成候段御達之趣ニ

ヨリ協議之次第左ニ申上候(明治34年11月)

記 明治35年度村役者の申渡

・(表題無) 担当村刳舟布帆について

・新税法実施記念祝賀会協議事項
(明治35年6月24日)

・(表題無) 新税法実施記念祝賀会について

・(表題無) 祝賀会順序について(明治36年1月13日)

・(表題無) 祝賀会当日、各戸国旗を掲げるよう達し

・第九五号 間切税徴収令書の配付について(明治36年1月15日)

・徴収令旨 三枚(明治36年6月15日)

・第一九三号 本都事務視察の為、県参事官出張のこと(明治36年5月4日)

・第一四一号 間切税徴収令書配付について

・第一八一号 村筑及浦内川渡舟加子観音堂番人給与について(明治36年6月16日)

・(表題無) 竹富村事務所附属家の棄却について(明治36年7月20日)

・第一九四号 明治36年度後期分徴収令書(明治36年9月18日)

・報 告 竹富村民等一同協議の上、八重山警察駐在貸上家屋新築のこと(明治36年10月7日)

・第七二五ノ一号 郡内住民の資産取調について(明治36年10月28日)

(明治36年11月20日)

・内一第六〇号 上記同内容(明治36年5月14日)

・第二二四号 村吏役場出張の事務手続について(明治37年6月6日)

・出張伺 当村戸数調査のため(明治37年8月17日)

・第一八〇号 上記出張伺許可証(明治37年8月18日)

・第三二五号 転地療養、父母墓参、帰省、父母祖父父母伯叔父母兄弟姉妹子孫等の重病、死去の際以外の私的旅行の禁止(明治37年9月24日)

・第三二七号 島庁員役場員の各村への出張について(明治37年9月27日)

・出張伺 農家経済調査打合のため(明治37年11月23日)

・出張伺 樟実植栽方打合のため(明治38年3月27日)

・出張伺 担当村、土地取調名要意台帳照合のため(明治38年8月1日)

・第二五二号 参庁の通達(明治38年11月29日)

・竹第四六号 竹富村事務所吏員勤惰報告(明治37年12月18日)

・出張伺 担当村戸口調査のため(明治39年1月18日)

・出張伺 担当村、土地取調、名要意ノ台帳照合のため(明治39年4月6日)

・出張伺 同 上(明治39年6月28日)

・願 亡母三回忌墓参のため出島の願出(明治39年10月5日)

(明治39年10月5日)

- ・(表題無) 各村吏員の出張の内容を詳しくするよう達し
(明治39年10月24日)
 - ・竹第四三号 竹富村事務所勤惰報告(明治38年12月)39年11月(明治39年12月1日)
 - ・第四三二号 各村吏員履歴書提出の達し
(明治39年12月10日)
 - ・御 届 竹富村樟山林について(明治40年1月13日)
 - ・出張伺 担当村戸数調査のため(明治40年2月4日)
 - ・第五一号 学校職員、毎月の借家材料及び戸主、家族数の調査をするよう達し(明治40年4月12日)
 - ・竹第三四ノ一号 上記報告(明治40年4月24日)
 - ・竹第四五号 竹富村事務所吏員勤惰報告(明治39年12月)40年11月(明治40年12月2日)
 - ・出張伺 担当村共有地に関し、間切役場と打合せのため(明治40年12月23日)
 - ・(表題無) 出頭の達し(明治37年2月4日)
 - ・第一四〇号 明治34年度間切税村税徴収令書配付について
(明治34年5月14日)
 - ・(表題無) 参庁の達し(明治37年2月24日)
 - ・第四五〇ノ一号 年日祝等の廃止について
(明治37年2月29日)
 - ・(表題無) 国債について(3月5日)
 - ・(表題無) 土地所有、土地売買について(4月2日)
 - ・中央風俗改良会趣意書、規則
-
- ・第三五七ノ一号 竹富村六十番地添盛三多方寄留平良ムウシについて(明治37年5月4日)
 - ・第三五七ノ二号 上記に関連して(明治37年6月17日)
 - ・第三四六ノ二号 寄留者の一覧(明治37年5月4日)
 - ・竹第三四六ノ三号 第三四六ノ二号平良恵良寄宿の件について(明治37年6月17日)
 - ・第八〇号 官吏公務のため郡内旅行に使用する人馬の願出について(明治35年2月20日)
 - ・第二八号 別紙公告書をよろしき場所と貼るよう達し
(明治35年1月23日)
 - ・第三二号 同上(明治35年1月27日)
 - ・第七七三号 別紙公告書をよろしき場所と貼るよう達し
(明治35年3月31日)
 - ・第一八七号 同上(明治35年7月3日)
 - ・第二二九号 同上(明治35年8月6日)
 - ・第二五四号 同上(明治35年8月10日)
 - ・第二五五号 同上(明治35年8月28日)
 - ・第二六七号 同上(明治35年9月6日)
 - ・第二四八三号 同上(明治35年9月16日)
 - ・第三一四号 明治31年度共同貯蓄賦課について
(明治31年8月17日)
 - ・八重山郡間切公告第五号 公告
明治34年4月7日航海中富崎海岸沖20町程のところ暴風雨のため沈没した舟と積荷について

(明治34年4月22日)

・第二七号 黒川島司の解任と警部中馬孝吉の任命

(明治39年2月1日)

・中央風俗改良會趣意書

・象形文字綴 (昭和10年6月) 上勢頭亨

・雜件

・口上覚

・不明

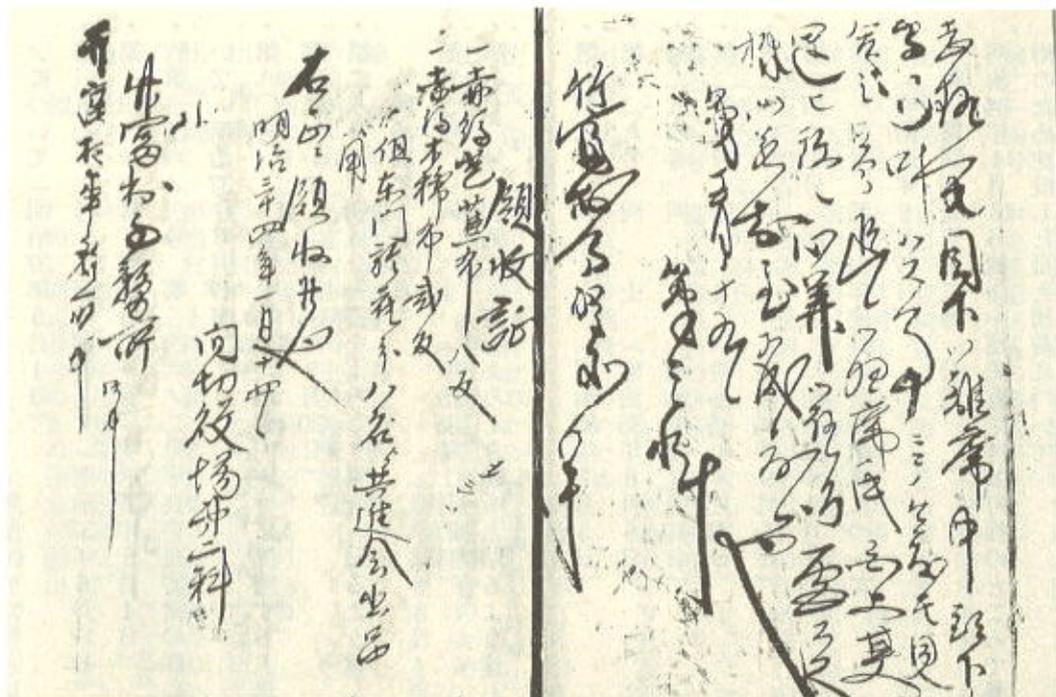
・記

・真綿

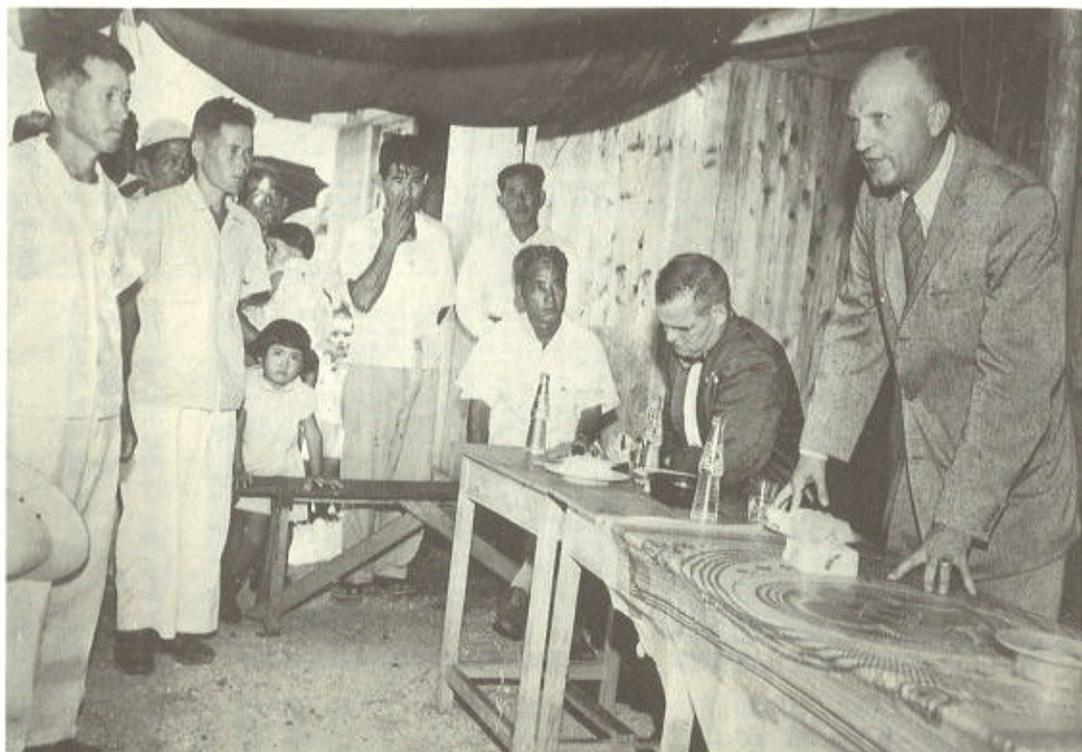
・嘉賞スヘキ者への祝寿目錄之下賜

・覚 (崎山与人)

・卒業証書 上間保久利 (明治34年3月21日)



喜宝院蒐集館文書マイクロフィルム印影本資料



住民を前に話しをするバージャー民政官

《写真にみるわが町》

—バージャー民政官の視察—

八重山では戦後、石垣島の北部や西表島の東部、北部に開拓移住による新興集落が次々と誕生した。琉球政府が一九五二年（昭和二七）に創設され、政府内に資源局八重山支局が設置されると、本格的な開拓移住計画が樹立された。従来の自由移民から行政主導の計画移民が導入された。

西表島東部にある豊原は一九五三年（同二八）三月、大宜見村や宮古島、竹富町の島からの入植四十七戸によって開拓移住村の建設が始まった。新天地に生活の場を築くことになった人々は、食糧難や悪性マラリアなど、さまざまな困難を克服しながら、ジャングルを切り拓き、おらが村づくりに邁進した。

豊原地区が発展途上にあつた一九五九年（同三四）、米国民政府のバージャー民政官が西表島を視察した。豊原、大原、大富、古見を訪れ住民の生活状況、村落の様子を巡察した。民政官の視察には町役場の前浜重雄総務課長が同行し、豊原公民館前で地域住民と懇談した。

写真は民政官が地域住民の前に米軍民政府の離島政策を話しているのか、それとも住民の質問に答えているのであろうか。民政官の鋭い眼光……。話す言葉の一言一句を聞き逃すまいと真剣に耳を傾ける住民たち……。写真からは張りつめた雰囲気伝わってくる。民政官は問題解決に尽力することを約束した。

収蔵図書紹介

受贈図書紹介

多数の個人、関係機関等から寄贈を受けております。あわせてお礼申し上げます。

寄贈者御芳名	受贈図書名
法政大学沖縄文化研究所	沖縄文化研究 18
	19
	20
	21
	22
	23
沖縄県立図書館資料編集室	沖縄県史研究紀要 第2号
琉球大学八重山芸能研究会	琉球大学八重山芸能研究会創立30周年記念誌八重芸
石川市教育委員会	石川市伊波城跡北西遺跡
財海洋博覧会記念公園管理財団	首里城公園企画展国子監と琉球人留学生
那覇市文化局歴史資料室	那覇市戦後50周年記念展報告書
八重山戦争マリア犠牲者追悼平和祈念誌編集委員	悲しみをのり越えて
沖縄県遺族連合会記念誌部会	終戦50周年祈念 いそとせ
石垣市総務部市史編集室	平和祈念ガイドブック ひびけ平和の鐘
浦添市立図書館	浦添市立図書館紀要No.8
琉球大学教育学部社会科教育研究室	竹富町小学校3・4年社会科副読本 「結びあり鳥じま」改定版
北谷町史編集事務局	北谷関係新聞記事目録 第1集 戦前編
沖縄学研究所	沖縄学研究所紀要 沖縄学 第1号
大阪沖縄県人会連合会五十周年記念誌編集委員会	雄飛 大阪の沖縄
群馬県立自然史博物館	アルゼンチンの大恐竜展

宜野湾市教育委員会 文化課

宜野湾市史別冊 戦後初期の宜野湾 — 桃原亀郎日記 —

今帰仁村歴史文化センター

なきじん研究7 今帰仁の地名 — 字名と小字 —

沖縄市企画部 平和文化振興課

沖縄市史第7巻・下 — 近代統計書に見る歴史 —

沖縄県立図書館史料編集室

沖縄県史研究叢書2 沖縄歴史関係主要論文総目録

勸沖縄県文化振興会公文書館

沖縄県史研究叢書3 琉球史料語注集成

管理部史料編集室

沖縄市平和文化振興課

写真がとらえた一九七〇年前後

KOZA ひと・まち・こと

竹富町企画課

竹富町長あいさつ文集 第2集

ひめゆり平和祈念資料館

感想文集 ひめゆり 第8号

ひめゆり平和祈念資料館

館報第8号

小浜小学校記念誌委員会

竹富町立小浜小学校創立百周年記念誌

「うふたき」

那覇市議会事務局議会史編さん室

那覇市議会史 第4巻 資料編3

名護市史編さん室

新聞にみる議会 戦前編

名護市史編さん室

やんばるの祭りと神歌

名護市史編さん室

名護碑文記(増補版)

沖縄県議会事務局

県議会復帰20年の記録

勸沖縄県文化振興会

歴代宝案研究 第8号

公文書館管理部史料編集室

岸秋正文の世界 — 沖縄へのまざざし —

沖縄県公文書館

石垣市史叢書10

石垣市総務部市史編集室

石垣市史のひろば 第23号

石垣市総務部市史編集室

鳩間小学校創立百周年記念誌 波濤を越えて

記念誌編集委員会

仲宗根政善言語資料(手稿) 目次集

琉球王国評定所文書編集委員会

琉球王国評定所文書 第十三巻

（財）沖縄県文化振興会 公文書館管理部史料編集室	沖縄県女性史研究 創刊号	豊見城村教育委員会史料編集室 沖縄県教育庁文化課	豊見城村史だより 第3号 沖縄県文化財調査報告書第一二七集 沖縄県の祭り・行事
〃	沖縄県史研究紀要 第3号	沖縄県立芸術大学附属研究所	琉球政府の時代 ― 図録 ―
〃	沖縄県史料 前近代10 考古関係資料2 沖縄県史 資料編3 米国新聞にみる沖縄戦報道	沖縄県立芸術大学附属研究所 沖縄芸術の科学 第9号 ― 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要 ―	
那覇市企画部文化振興課	那覇市史 通史篇第1巻 前近代史	「星砂の島」編集委員会	星砂の島 第二号
沖縄県立図書館	沖縄県立図書館本館所蔵 特殊文庫目録―郷土資料編―	八重山地区小中学校校長会 沿革誌編纂委員会	八重山地区小・中学校校長会結成30周年記念 沿革誌
石垣市総務部市史編集室	村むら探訪―椀海の歴史・生活・自然―		
東海大学海洋学部海洋観測委員会	東海大学海洋学部総合調査海洋観測データ第17号		
与那国町史編纂委員会事務局	町史別巻1 記録写真集 与那国 ―沈黙の怒涛― どうなんの100年		
与那国町企画室	町制施行50周年記念与那国町勢要覧		
沖縄県立博物館	旧中城御殿―旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査―		
沖縄県立博物館	沖縄県立博物館紀要 第21号		

業務日誌

◆一九九七年（平成九年）

一〇月一日

・「新聞集成Ⅲ」索引作成、項目別にパソコン入力作業を続行。

一〇月三日

・臨時職員の小浜啓由、平良みゆき、採用更新。

一〇月六日

・町史編集室定例会議、十月業務予定検討。

一〇月二〇日

・「新聞集成Ⅲ」索引、第一回校正。

一〇月三〇日

・「新聞集成Ⅲ」本文等の第四回校正作業。

十一月四日

・町史編集室定例会議、十一月業務予定検討。

・「新聞集成Ⅲ」索引第一回校正作業続行。

十一月五日

・「前近代・近代」編資料目録作成作業に着手。

十一月七日

・「竹富町史だより」第十二号、八島印刷より二千冊納品。

十一月一〇日

・「新聞集成Ⅲ」索引校正作業を終え、株式会社印刷へ発送。

十一月二日

・「竹富町史だより」第十二号、全町民（一五九六世帯）配付のため、各区長あて発送。

十一月八日

・沖繩本島へ一泊二日出張（職員二人）。前近代及び近代資料収集のため琉球大学等を訪問。大学図書館で開催中の宮良殿内資料展を参観。貴重な資料を拝見する。

十一月二〇日

・「新聞集成Ⅲ」本文及び索引の最終校正原稿、印刷会社から届く。最後の校正作業に入る。

十一月二一日

・「新聞集成Ⅲ」最終校正完了、本文、索引を印刷会社へ送付。

十一月二四日

・行政文書分類整理編纂保存業務完了（南山舎に業務委託）。

十一月二五日

・八重山地域史協議会設立のため、第一回準備委員会を町史編集室会議室で開き、設立趣意書及び会則等を検討、石垣市史二人、竹富町史二人、与那国町史一人出席。

十二月一日

・戦後発刊の地元紙、昭和二一年以降の記事探索作業続行。

・「前近代・近代」編資料等の古文書のコピー製本作業。

・町史編集室定例会議、十二月業務予定検討。

十二月四日

・前近代、近代資料、県立図書館で探索。伊波普猷没後五〇年記念シンポジウム聴講、那覇出張一泊二日。（職員一人）

二月一日

- ・八重山地域史協議会第二回準備委員会、竹富町史編集室で開催。設立趣意書・会則(案)を検討、一部修正して決定。その後、設立総会を開き、設立趣意書、会則を審議、原案可決。
- 八重山地域史協議会、平成九年二月一日付けで発足。

◆一九九八年(平成一〇年)

一月五日

- ・町史編集室定例会議、一月の業務予定検討。
 - ・「前近代・近代」編資料探索、資料目録作成作業続行。
 - ・戦後発刊の地元紙、昭和二十年以降の記事探索作業続行。
- 一月九日
- ・町史編集室臨時会議、第一三回編集委員会及び小浜島の史跡巡見等の準備業務の確認。

一月二〇日

- ・県公文書館主催の第一回資料保存講演会、図書補修と製本の研修出席、那覇市出張一泊二日(職員一人)。

一月二二日

- ・糸満市役所の金城善氏来室、近世資料の提供を受ける。

一月二三日

- ・八重山郷土新聞の上製本に向けて五業者へ見積もり依頼。

一月二六日

- ・行政文書分類整理編纂業務委託契約を南山舎と締結し、作業に着手。

- ・第十二巻資料編「戦争体験記録」、印刷製本業者から届く。

一月二八日

- ・本町刊行図書の委託販売業者へ書籍在庫確認票を送付。

一月三〇日

- ・「前近代・近代」編資料目録作成完了。

一月三一日

- ・第一三回町史編集委員会、「前近代・近代」編編集及び町史巻別、個別発行年度の一部見直し、町制施行五〇周年記念誌発刊等について審議、新たに選任された四人の編集委員に委嘱状の交付、小浜島の史跡巡見。

- ・第十一巻資料編「新聞集成Ⅲ」青焼き、印刷製本業者から届く。

二月二日

- ・第十二巻資料編「戦争体験記録」送付先、配付先のリスト作成に着手。

- ・第十一巻資料編「新聞集成Ⅲ」青焼き、印刷製本業者へ送付。

二月三日

- ・町史編集室定例会議、二月の業務予定検討。

二月四日

- ・県立博物館の前田真之氏、波照間総合調査の資料確認のため来室。

二月五日

- ・本町刊行図書の委託販売業者へ書籍在庫確認票に基づき納入通知書を送付(二月一〇日まで)。

二月一三日

・町史編集委員の里井洋一氏、「前近代・近代」編集集に向けて来室。翻刻や解説等について打ち合わせを行う。

二月一六日

・八重山郷土新聞上製本の契約を（有）沖縄マイクロセンターと締結、八重山毎日新聞、八重山日報を同社へ送付。

二月一八日

・資料編第十二巻「戦争体験記録」、関係機関や証言者、調査協力者等に発送。

編集後記

◆『竹富町史だより』第十三号を発売しました。これまでに写真集「ばいぬしまじま」、第十一巻資料編「新聞集成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、第十二巻資料編「戦争体験記録」を発売しました。今号では最近発売した「新聞集成Ⅲ」「戦争体験記録」の紹介をトップに扱いました。「戦争体験記録」は関係者に送付しましたが、大きな反響を呼んでおります。

◆今号の目玉は現在、編集作業をやっています、第十巻資料編「前近代・近代」の編集要綱と資料目録です。竹富町関係の史資料は、資料目録を作成した結果、膨大にのぼることが分かりました。問題は、これをどのようにして編集していくのか、これからの課題です。今号では竹富町に直接関わる喜宝院蒐集館文書を取り上げました。



竹富町史だより 第13号

平成10年3月31日 発行

編集発行 竹富町史編集室

沖縄県石垣市字大川10番地

☎09808-2-9985

印刷 八島印刷